



## 頭部 CT 検査

### CT 検査



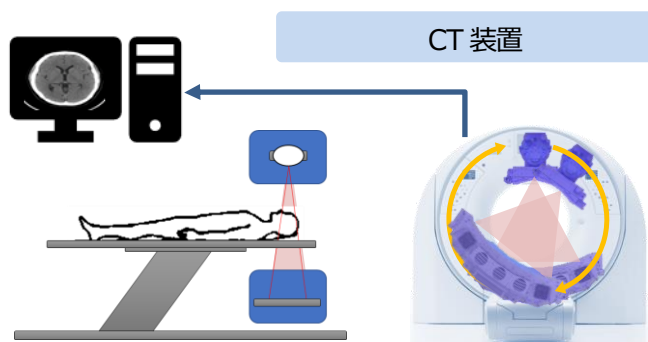
CT 装置

当院では、令和 4 年からオプションで頭部 CT 検査を導入しております。

「CT」とは、「Computed Tomography」の略で「コンピューター断層撮影」と訳されます。CT 検査は、X 線を使って身体の断面を撮影する検査です。初期の CT 装置は、1 回の撮影で 1 枚の画像しか得られず、撮影時間が長いことが難点でしたが、現在では広い範囲を撮影できるマルチスライス CT の登場で、1 回転でより多くの画像が撮影可能となりました。

\* CT と MRI の違いは、ニュースレター No.54 をご覧ください。

### 当院の CT 装置の特徴 (80 列マルチスライスの特徴)

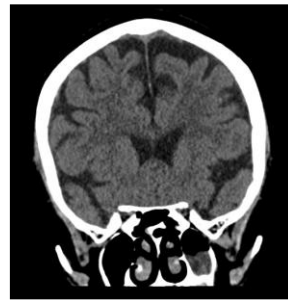
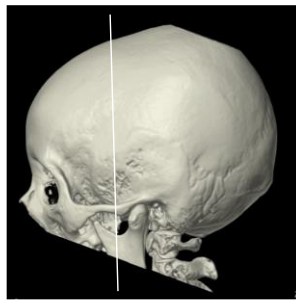


- ・多重検出器により短時間で撮影できるため、息止め時間が短縮される。
- ・1 画像の断層厚が薄い(0.5mm)ので、鮮明な画像を得られる。
- ・最適な X 線エネルギー出力により低被曝が実現できる。  
(頭部 CT:0.5~1.5mSv、胸部 CT:7mSv)
- ・780mm の大開口径装置で、検査中の圧迫感が少ない。
- ・横断面の他に前額面や矢状面の画像も同時に得られて、また脳以外に骨(顔面骨、頭蓋骨)も表示できる。

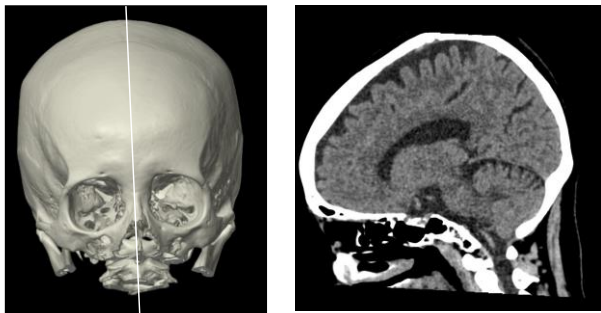
横断面



前額面



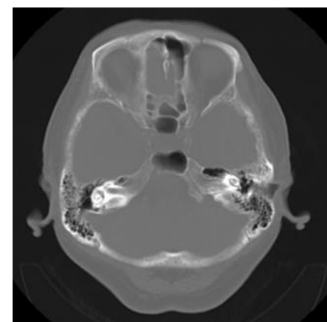
矢状面



脳の表示



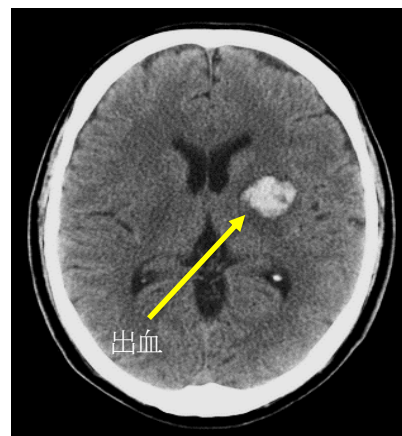
骨の表示



## 頭部 CT 検査の特徴

頭部 CT 検査では、大脳、小脳の他に副鼻腔や頭蓋骨も撮影されます。脳の萎縮の程度や、脳腫瘍、脳梗塞（急性期や小さいものを除く）脳内出血、血腫などの脳の病気が短時間でチェックできます。

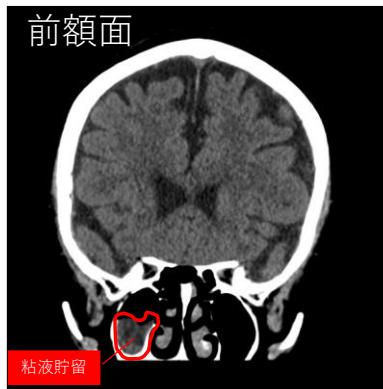
頭部 CT 検査がない時代では、脳出血と脳梗塞の区別が付きませんでした。そのため、脳出血と脳梗塞を総称して脳卒中と呼んでいましたが、頭部 CT 検査を行うことで、脳出血と脳梗塞の鑑別が簡単に行えるため、脳卒中という言葉はあまり使われなくなりました。また、副鼻腔の粘液貯留や腫瘍も描出されることから、炎症や腫瘍の診断にも適しています。



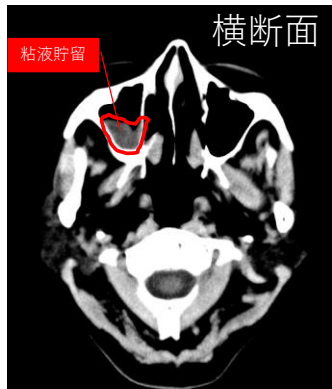
CT による頭部画像

副鼻腔（右上顎洞）の粘液貯留

前額面



横断面



※ 頭痛やめまい、頬や目の周囲に痛みや重さを感じている等、頭の病気を気にしている方には、この検査の受診をお勧めします。

当院では、当日申し込みで頭部 CT のオプション検査を受けることができます。

健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局  
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp